

松原 圭一 地域小児・周産期学 新教授インタビュー

～多様な教育法で産科医を育成し、母と子に最善の分娩を実施～

当院の産婦人科では、日本トップクラスの医療を展開しています。例えば、腹腔鏡下の広汎子宮全摘手術という初期の子宮頸がんに対する手術は、四国では唯一当院が行っています。周産期医療においても当院は充実しており、最善の医療を提供できる体制が整っています。

私は医師を志した時から、生まれてくる子どもとお母さんにとって最善の分娩を選択・提供したいと考えてきました。これを実現していくために、産科医の養成にシミュレーション教育を積極的に取り入れ、愛媛県全体のスキルの底上げを目指しています。昨年度から新生児蘇生法（NCPR）のシミュレーション教育を始め、また、医師や助産師など産科医療者全体のシミュレーション教育（ALSO）等も、今年度から新たに行う予定です。

また、地方でも徐々に医師が増えつつありますが、産科はまだ十分な状況ではありません。私も毎週、県立新居浜病院で診療に当たっており、地域の周産期医療を守るために、今後もしっかりとサポートを続けていきたいと考えています。そして、私の専門分野である妊娠高血圧症候群の研究を続け、更なる最善の分娩を提供できるように努力していきたいです。



インタビューに答える松原教授